

令和4年度 学校経営方針

渋谷区立鉢山中学校

校長 小幡 政明

1 教育目標

教 育 目 標

社会の変化に自ら対応できる、心豊かな生徒の育成を目指し、次の目標を定める。

- 挑 戦 (Challenge)
- 創 造 (Create)
- 対 話 (Communicate)

2 目指す学校像

- 1 安心して自分の個性を伸ばせる学校
- 2 豊かな人間関係の中で、新しいことを創造できる学校
- 3 家庭、地域と共に生徒を育む学校

3 目指す生徒の姿

- 1 自ら学び、考え、新しいことに挑戦する生徒
- 2 自らを律し、より良い世界を創造しようとする生徒
- 3 自他の違いを認め、お互いを尊重する生徒

4 教育の重点

- 1 STEAM (STEAM教育の推進)
- 2 GLOBAL (国際理解教育の推進)
- 3 DIVERSITY (特別支援教育の推進)

【基本方針1】 Challenge 「学力の向上」と「健全な心身の育成」

基本方針1	1	「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ①学習指導要領の研究を常に行い、知識・技能を活用し、思考力、判断力、表現力を育成する授業改善を図る。 ②各教科の「見方・考え方」を重視し、課題解決型学習の充実を図る。 ③評価方法を更に改善し、指導と評価の一体化を図る。 	
	2	STEAM教育	S	①ハチラボ、高校・大学等と連携した「おもしろ理科教室」を充実させ、科学的な思考を育む。
			T	①タブレットやデジタル教科書を効果的に活用して、「鉢山 Basic Style」を発展させる。
				②タブレットを活用して、家庭学習の習慣化を図る。
				③タブレットを活用しながら、アンタル・ソテイスンツフ教育を推進する
			E	①プログラミング教育授業を更に開発する。
			A	①朝読書、ブックトーク等、豊かな感性を育てる読書活動を推進する。
				②学校図書館を情報センターとして、「自ら調べ、考える」授業を行う。
				③新聞活用教育を推進する。
				④大学等と連携した法教育を推進する。
⑤芸術鑑賞等を通して、豊かな感性を育てる。				
M	①個に応じた授業方法を工夫する。			
	②東大先端研と連携した体験型授業を推進する。			
3	国際理解教育	<ul style="list-style-type: none"> ①「アートマイル」国際協働授業等で、他国の人々と交流し異文化理解を図り、グローバル社会で活躍できる資質・能力を育成する。 ②各教科・領域でSDGsに取組み、持続可能な社会の創り手を育成する。 ③ALTやTGGを活用した英語活動を充実させる。 		
4	個別最適な学び	①生徒一人一人の資質能力を把握し、ICT機器等を活用し、個別最適な学びを推進する。また、「まなび〜」を充実させ補充学習を推進する。		
5	社会に貢献するための安全・防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ①軽可搬ポンプ訓練、救急救命講習等、地域と関係した活動を通して、他者や社会の安全に貢献できる資質や能力を育成する。 ②セーフティ教室・スクアード・ストレイト等を通し、交通事故、SNSトラブルやサイバー犯罪などの危険を予測し回避する能力を高める。 		
6	一人一人に即した体力向上	<ul style="list-style-type: none"> ①授業や行事等で、一人一人に目標をもたせ、体力向上の意欲を高める。 ②朝ランニングで主体的に体力向上を図る態度を培う。 		
7	主体性を育てる部活動	<ul style="list-style-type: none"> ①本校部活動方針に則り、過度な負担がかからないように活動する。 ②生徒の主体性を育成し、達成感を味わわせる。 ③渋谷ユナイテッドと連携して部活動を運営する。 		

【基本方針2】 Create
「意欲的に取り組む姿勢」と「創造する意欲」の育成

基本 方針 2	1	学校行事への積極的な参加	①運動会では、主体的に取り組む姿勢を培い、心身の健全な発達を促進する。
			②学習発表会では、互いの発表を鑑賞し、認め合うことで互いを尊重する態度を育て、集団の力を高める。
			③校外行事では、自らを律し、協力する態度を育て、集団への所属感や連帯感を育てる。
	2	主体的な生徒会活動の推進	①学校生活向上のために主体的に話し合い、合意形成して実践する組織をつくる。
			②「鉢山中学校いじめ対策方針」「SNS鉢山ルール」等の精神を生かし、挨拶運動やいじめ撲滅運動に取り組む。
			③ボランティア活動など社会貢献を推進する。
3	オリンピック・パラリンピックレガシーの推進	①「アートマイル」を本校のオリンピック・パラリンピックレガシーに位置付け継続して実施する。	
		②パラ競技観戦や体験を通して、応援文化を根付かせ、ボランティアマインドを育成する。	
4	自己の未来を切り拓くキャリア教育の推進	①自己の適性や能力を生かす進路選択ができる能力を育てる。	
		②職業訪問、職場体験等を通して、望ましい職業観や将来への展望をもち、自己の生き方を探求し、自らの未来を切り拓いていこうとする態度を育てる。	
5	持続可能な社会の担い手を育てる総合的な学習の時間の充実	①各教科・領域との連携を図り、カリキュラム・マネジメントの視点で、SDGsに取り組む。	
		②「シブヤ科」では、全体テーマを「渋谷区とSDGs」とし、「課題設定」「情報収集と分析」「考えの形成」「発信」の探究的な学習を通して、「渋谷シティプライド」を醸成する。	
6	地域教育施設と連携した文化・芸術の創造	①各種コンクールやコンテスト等に積極的に参加させ、生徒の文化・芸術面の資質・能力を高める契機とする。	
		②社会教育館、郷土博物館・文学館図書館・美術館等と連携し、本物に触れる機会を多くする	

【基本方針3】 Communicate
「人権教育の推進」と「互いを尊重する態度の育成」

基本方針3	1	教育活動の基盤としての人権教育の推進	①人権について正しく理解し、自他の生命や人権を相互に尊重し合う態度を育成する。 ②いじめ、差別や偏見などの人権侵害を許せないとするような人権感覚を高める。
	2	多様性の理解	①様々な違いを認め、相互理解を深め、誰とでも公平に接する態度を育成する。 ②一人一人の個性を尊重し、ともにより良い世界を築こうとする態度を育成する。
	3	思いやりの心を育む 道徳教育の推進	①自他の生命を尊重し、思いやりの心で人に接する態度を育てる。 ②道徳的価値について、考え議論することによって、理解を深める。 ③道徳授業地区公開講座等を通して、家庭、地域と共に取り組む。
	4	一人一人を大切に した特別支援教育の 充実	①一人一人の教育的ニーズを把握し、「学校生活支援シート」等を活用し、個に応じた教育の充実を図る。 ②巡回指導員や関係諸機関との連携を積極的に図り、個に応じたより良い教育方法を提供する。
	5	不登校0への取組	①ガイダンスの機能を充実させ、学校への適応を促し、不登校生徒を出さない取組を行う。 ②教育相談的手法等を用いて、人間関係形成能力を高める。 ③不登校生徒には、組織的に対応し、関係諸機関との連携を図りながら、一人一人にとってより良い解決策を見つけていく。
	6	問題行動・いじめ防止 の取組	①自らを律し、よりよい集団や社会を築こうとする態度を育成する。 ②いじめやSNSの問題などに、主体的に話し合い解決していこうとする態度を育成する。 ③いじめの早期発見・早期解決に努める。 ④いじめには「いじめ対策基本方針」に則って組織的に対応する。
	7	ボランティア活動の 推進	①計画的にボランティアの機会を提供し、主体的にボランティアに取り組ませ、社会貢献への意識を培う。
	8	体験活動の重視	①社会体験や自然体験等、体験活動を通して、自己の役割や責任を自覚する活動を重視する。

【基本方針4】 Collaborate 「コミュニティ・スクール」と「家庭・地域との連携」の推進

基本方針4	1	コミュニティ・スクール活動の推進	<p>①学校運営協議会として、学校運営の方針について承認し、教育活動に対する意見を述べる。</p> <p>②地域コーディネーターを中心に地域学校協働活動を推進する。</p> <p>③学校教育での地域人材や地域教育資源や企業等の活用の仲介を行う。</p> <p>④学校の教育課題について、教職員と話し合い、より良い解決策を探るなど学校教育活動に参画する。(熟議)</p>
	2	PTAとの連携	<p>①共に生徒の健全な成長を願う立場にあることを理解し、協力・連携した教育を行う。</p> <p>②基礎的・基本的な生活習慣、家庭学習習慣については、家庭の役割の重要性を明確にし、協力を依頼する。</p> <p>③生徒指導に関する保護者への報告は、迅速に行い、誤解をさけるためできるだけ直接会って行う。</p>
	3	地域行事への積極的な参加	<p>①生徒の各行事への参加を促し、地域によって育まれている自覚をもたせ、自尊感情を高める。</p> <p>②各行事へボランティアとして参加させ、地域に貢献する態度を育てる。</p>
	4	近隣小学校、高等学校、大学等との連携	<p>①小中連携の日等を通して、児童・生徒情報を交換するとともに、地域の子供たちを教育しているという共通意識を持つ。</p> <p>②高等学校や高等専門学校と連携を図り、生徒が自らの将来について考える契機を作る。</p> <p>③東大先端科学研、国学院大学など大学との連携を図り、最新の教育的な知見を積極的に取り入れ、本校の教育内容を高める。</p>
	5	企業との連携	<p>①mixi、アルバルク東京等、企業やプロスポーツチームとの連携を通して、教育活動を豊かにする。</p>
	6	関係諸機関との連携	<p>①生徒指導では、関係諸機関との連携を密にしていく。</p> <p>②教育機関等との連携を図り、最新の教育的な知見を積極的に取り入れ、本校の教育内容を高める。</p>
	7	広報活動の推進	<p>①学校・学年だより、HP、ホームアンドスクール等を活用し、教育活動を積極的に広報する。</p> <p>②土曜日授業等の学校公開を通して、学校の様子を保護者や地域に公開する。</p>
	8	学校評価の有効活用	<p>①学校評価を有効に活用し、不断の学校改善を行う。</p>

**【基本方針5】 Correct work
「教員の心得」と「働き方改革」**

基本 方針 5	1	信頼関係を基にした 生活指導	①教員と生徒、保護者との信頼関係を確立し、生徒の自己有用感や自尊感情を高めることに努める。
			②基本的な生活習慣を確立し、規律ある生活態度、ルールやマナーを身に付けさせる。
			③個々の生徒の心情や生徒相互の人間関係を的確に把握し、いじめや不登校を防ぐ。
			④思いやりの心や自他の生命を尊重する態度を育て、いじめを許さない人間関係づくりの指導を徹底する。
			⑤特別支援校内委員会、生活指導部会等を通して、情報共有を密に行い、課題解決に組織的に取り組む。
			⑥いじめが発生したら、いじめ対策委員会をすぐに発足させ、組織的に取り組む。
	2	研修及び自己研鑽	①校内研修に主体的に取り組む、OJTを常に意識して、自己の資質・能力の向上に努める。
			②区や都の研修・他校の研究発表・指導教諭の授業・各研究団体主催の研究授業等、外部の研修に積極的に参加し、自らの知見を高める。
	3	組織的な学校運営への参画	①学校の組織的な運営を常に意識し、自分の役割を自覚して、ベストを尽くす。
			②より良い学校を作るために何を為すべきかを考え、学校運営に積極的に参画する。
			③コミュニケーションを密にして、協働意識をもち、1つのチームとして教育課題に臨機応変に対応する。
	4	サービスの厳正	①区民・都民に奉仕する公務員であることを自覚し、サービスの厳正を期する。
			②公費、私費に関しては、管理をしっかりと行い会計事故を起こさない。また、学校徴収金については、保護者負担の軽減を基本とする。
			③整理整頓に心掛け、個人情報の取扱いに留意する。
	5	働き方改革の推進	①校内業務の電子化や見直しを図ることで、効率的に業務を進める。
			②校務分掌を見直し、学校の実態に即したチームとして機能的に働くことで、一人一人の負担を軽減する。
			③新たに生じた教育課題に対しては、プロジェクトチームを発足して対応する。
			④教材共有を行ったり、先行研究事例や指導案を活用するなどして、効率的な授業準備を行う。また、Teams等を活用し、宿題回収、採点の効率化を図る。
			⑤タイムマネジメントをしっかりと行い、勤務時間を有効に活用する。
			⑥定時退勤(毎週水曜日)を設け、学校閉庁日を増やして、残業時間を軽減する。